

人工股関節置換術後の脱臼予防行動に関するDVD改訂とその評価

Assessment of the Revised DVD on the Prevention of Dislocation after Total Hip Arthroplasty

東3階

坂村絵里子 小穴恵子 津田和恵 太谷美果 赤池勝美 天正恵治

〈要旨〉人工股関節置換術（以下THA）の合併症の一つに脱臼がある。昨年の当病棟の研究で脱臼予防に対するDVDを作成し、動画から情報を得ることで理解を深められるということが分かった。しかし右足用のDVDしかないため患肢が逆の患者は理解しにくいや、退院後の日常生活動作についての動画が見たいとの意見があり、改善点が明らかとなった。そこでDVDを改訂しその評価を目的として、入院患者を対象に日常生活動作10項目に関する聞き取り調査を行った。その結果、日常生活動作10項目に関する調査の正解率は90%近くと高かった。しかし年齢が高齢になるほど正解率が低下し、退院後に行う日常生活動作については正解率が低いことがわかった。よってどの年代でも理解出来るようナレーションの見直しを行い、患者の時期に合わせたDVDを作成することにより、より患者の理解を深めていく必要がある。

キーワード：人工股関節置換術，脱臼予防，DVD

I. はじめに

昨年、当病棟で人工股関節置換術後患者の脱臼予防についてのDVDを作成した。動画を用いることでイメージがつきやすく理解が深まったが、左足用の動画がなく左人工股関節置換術を受けた患者は手術肢位が違いため理解しにくいとの意見や、退院後の日常生活動作についての知識を深めたいとの意見があった。そのため今年度はニーズの高い日常生活動作を追加、左右別々のDVDを作成し、日常生活動作10項目に関する聞き取り調査を実施することで改訂したDVDの評価を行った。

II. 研究方法

1. 調査および作成期間：平成23年9月～12月
2. 調査対象：THAを行った患者。
3. 調査方法：術後2～3日後の同意が得られた患者にDVDを3～5日貸し出して好きな時に視聴してもらった。日常生活動作についてのリハビリ指導が始まる前である術後7日目に、看護師が日常生活動作のポイントや注意点10項目について理解できているか聞き取り調査を行った。同時にDVDの長さや視聴後の感想等のアンケート調査を行った。

〈調査項目〉

- | | |
|------------------|-------------|
| ①脱臼肢位 | ②お風呂の入り方 |
| ③靴の履き方 | ④床に落ちた物の拾い方 |
| ⑤ズボンの履き方 | ⑥足の洗い方 |
| ⑦車椅子・ベッド上での足の置き方 | |
| ⑧冷蔵庫の下の物の取り方 | |
| ⑨車の乗り方 | ⑩寝返りのうち方 |

〈感想等のアンケート〉

- ①DVDの長さ
- ②視聴時期
- ③内容の分かりやすさ
- ④今後の生活への役立ち度
- ⑤改善点

III. 倫理的配慮

研究に際し、事前に当院における研究倫理委員会の審査を受けるとともに、研究倫理面には十分に配慮した。また、患者に対して文書を用いて研究の目的や方法を説明しプライバシーの保護、研究への参加は任意であること、参加しなくても不利益がないことなど配慮した。

IV. 結果

患者の特性においては、男性4名、女性6名（再置換は含まず）にて調査し50代が90%、60代が100%、70代が81%の正解率であり、男女比は男性81%、女性90%であった。（図1）聞き取り調査10項目の中で特に日常生活動作10項目の中で、③靴の履き方、④床に落ちた物の拾い方、⑦車椅子やベッド上での足の置き方、⑩寝返りのうち方 については正解率が100%であった。しかし⑨車の乗り方 については3人が不正解であり、次いで①脱臼肢位、⑧冷蔵庫の下の物の取り方 については正解率が低いという結果になった。（図2）

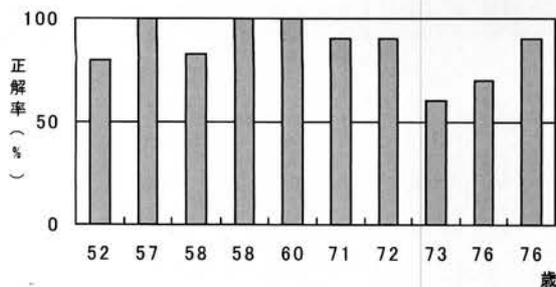


図1 年齢別正解率

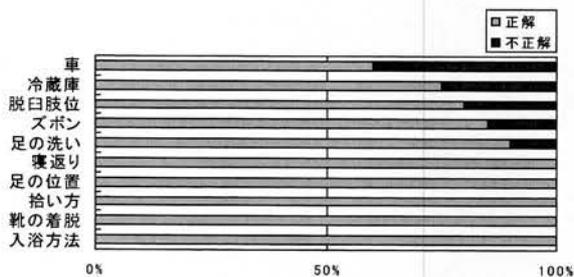


図2 問題別正解率

感想からはDVDの長さ・視聴時期についてはちょうど良かったとの意見が多かった。また今後も活かせるであろうとの回答を全員から得られた。改善点として、「DVDのコピーがほしい」「項目毎にチャプターをつけて分けてほしい」「正解、不正解を画面に○×としてつけてほしい」との意見があった。

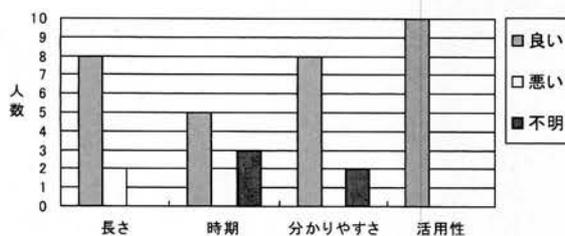


図3 アンケート項目について

V. 考察

日常生活動作10項目については全体的に正解率が高く、脱臼肢位についての理解が促進されていると考えられる。左右別々のDVDを作成したことで、患者が自分の手術肢位に合ったDVDを自分に当てはめて視聴することができ、理解が深められるため改訂したDVDが有効なものになった。DVDの長さについては日常生活に特記した事項を追加したが、専門用語などの箇所を削り、THAを受ける年代に多い50~70代において疲労や飽きがないよう考慮、10~20分で作成したため不満の声は聞かれず負担にならなかったと考えられる。時期については術後2~3日目より創痛が軽減してくる時期であり集中して視聴出来る時期だった

と考えられる。しかし、年齢が高齢になるほど正解率が低く、精神的機能変化として記憶力、想起力が低下しやすいと言われているため正解率が低下したと考えられる。項目別でみると、退院後に行う動作ほど正解率が低く、術後7日目ではイメージがつきにくかったのではないかと考えられる。項目⑨車の乗り方については、DVDでは乗用車で撮影したが、「ワゴン車での乗り方はどうやるのか」との質問が多く、車種別の説明も必要であった。①危険肢位については、DVDでは脱臼肢位のみを映像として流していたためイメージがつきにくかったと考えられる。よって場面設定をして、その中で危険肢位を取り入れたら理解が促進されたのではないかと考えられる。⑧冷蔵庫の下の物の取り方については特定の患者において正解率が低かった。冷蔵庫のものをとるなどの家事に関することはやらないため覚えなくてもよいと回答があり特定の患者にはイメージがつきにくいことが正解率の低さにつながったと想定される。低い引き出しから物を取り出す動作を意図した質問だったが、そう受け止められなかったことが正解率の低さに関係したと考えられる。また、正解率が低かった項目についてはナレーションを見直し、専門用語の変換・文字数・画面とのスピードなど調整していく必要がある。また入院中に注意すべき脱臼肢位と退院後に行う動作の中で注意すべき肢位と段階別に合わせたDVDにすることで、患者のニーズに合った指導ができ、理解が深められるよう改善点が明らかとなった。

また、5人においてDVDのコピーがほしいとの感想があり、退院後の生活において不安が強いと考えられた。よって、術前指導の際に活用しているパンフレットをDVDの内容と連動させ表示することで、退院後も自宅で脱臼肢位の確認がとれるため患者のニーズにも応えられたと考えられる。日常生活に戻ると患者本人だけでなく家族と共に生活するため、家族の不安を軽減するためにも、家族にも視聴してもらい、患者と共に退院指導を行うことで理解が促進されると考えられる。

VI. 結論

①先行文献からDVDを視聴する上で最も意見が多かった患側と健側の区別がつきにくいという改善点から、左右別々のDVDを作成したことで患者が自分の手術肢位に合ったものを視聴でき混乱することなく、質問や感想内でわかりにくいという意見も聞かれなかったため脱臼肢位の理解促進につながった。また、DVDの長さ、視聴時期共に患者の術後状態から適当であり、患者の都合に合わせて視聴できたことで疲労や拒否につながらなかったと考えられる。

②車の乗り方、危険肢位、冷蔵庫の下の物の取り方

において正解率が低かった項目についてはナレーションの見直し，個別性のある場面設定を行いイメージが付きやすい映像に修正する必要がある。また，入院中に注意すべき脱臼肢位と退院後に行う動作の中での注意すべき肢位と段階別に合わせたDVDにすることで，より患者の日常生活に近づいた指導ができるのではないかと考えられる。

参考文献

- 1) 佐藤政枝：人工股関節再置換術後患者の再置換に関連する住生活環境要因，日本看護研究学会雑誌，32巻，2頁，2009
- 2) 藤田ちあき他：人工股関節全置換術を受けた患者に対して退院指導の見直し，Hip Joint，34，2008
- 3) 大神泰子他：人工股関節全置換術を受ける患者への入院前患者教育の認知効果ービデオテープ・パンフレットを利用してー，Hip Joint，30，2004